

NEWS LETTER

奄美 シマの
自然と文化を

- 1p アマミノクロウサギ特集
- 2p 外来種対策など
- 3p 遺産登録からの1年
- 4p ヘエ〜講座ほか

発行：環境省奄美群島国立公園管理事務所



1 じいちゃん、
チョウチヨ
つかまえたっ!

あげっ
あじがねっ

だんば、遠くから
飛んできたのよ。
かわいそうだから
にがしてあげれ。

渡ってきた
アサギマダラ

またもや出演
りっちゃん

2 遠くからち
よじゅん、
? ?

海に向こうよ。
感心でしょ。
こんな小さな
チョウチヨが
地図も天気予報も
みらんで
飛んでくるのよー。

テレビ見たら
いいのに...

3 じいちゃん思うわけ。
チョウチヨも鳥も魚も
みんなすこいよあち。

食へ物とするのも、楽作るのも、
雨風波しのぐのも、
ぜんぶ自分の力ですがね。
自然の中にある生きものは
人間よりすこいよあち。

なんちゃってー
じいちゃん、今日は
エイブルフルよー

じいちゃん!
ルリカケス
つかまえたー

やられたがっ
りっちゃん、
お話も聞かんば(笑)

4 でも昔は島人もすこだったのよー。
シマの自然を本当によく見て、
むる知った。

天気も読めるし、山海川から
食へ物をとってきたり、
家もみんなで作ったりよ。
すこいよねえっ

りっちゃんも
風が冷たくなったら
雨がふるち分かるっ

シマに住んでるのに
シマの自然を知らんのは
もったいないち思うっちゃんね。
じゅん、りっちゃん。

早速、お外に遊びに行こっか。

これは午後から
風がまわるねえ。

山の食べ物に
詳しいあちゃん

遠くの空を見て天気を
ずばり当てるじいちゃん

編 集 後 記

子供の頃、父ちゃんと一緒に瀬渡しで釣りに。すると船頭さんが遠くの空を見ながら「午後から風が回るから早めに迎えにきますねー」と一言。風向きはその通りになり、子ども心に感動しました。スマホにPC、ネットにテレビ。膨大に簡単に情報が手に入る分、自然を見なくなってるのでは? 感じる力や利用する能力、大切にすることは失くしていないか? 取り戻さんば! と反省する黒豚でした。(黒豚編集長)

連絡先：環境省奄美群島国立公園管理事務所
電話：0997-55-8620 編集：奄美自然学校

コラム 徳之島世界遺産センター 準備中です!

環境省では、徳之島町花徳にオープン予定である「徳之島世界遺産センター(仮称)」の建設準備を進めています。このセンターは徳之島の自然の保全と適正利用の両立を図るための拠点施設となることを目指しており、徳之島の自然の魅力や世界自然遺産としての価値、管理に向けた取り組み等を様々な角度から伝える館内展示を準備しています。着工は令和5年度、オープンは令和6年度以降となる予定です。

※写真はイメージです

世界自然遺産の価値

アマミノクロウサギを知ろう

奄美大島と徳之島にのみ生息するアマミノクロウサギ。奄美群島を含めた琉球列島の成り立ちを象徴する種の一つでもあります。

島に取り残された遺存固有種

奄美群島は、約1200万年前はユーラシア大陸の縁に位置していました。その後、地殻変動によって沖縄トラフが形成され、大陸と琉球列島の間に海ができました。このときに島に取り残され、現在までの間に大陸にいた同種や近縁種が絶滅してしまった種を「遺存固有種」と呼び、アマミノクロウサギもこの遺存固有種にあたります。このほかに、ケナガネズミやアマミイボイモリなども遺存固有種です。

アマミノクロウサギのユニークな形態と生態

ウサギの原始的な特徴を残しているアマミノクロウサギは、ノウサギ属のニホンノウサギと比べて耳や手足が短いです。これは、ノウサギ属が大陸で繁栄していた肉食哺乳類から逃げるために早く走れるよう進化したのに対し、島に取り残されたアマミノクロウサギはそのような進化をする必要がなかったからだと考えられます。一方で、アマミノクロウサギは地面を掘るのが得意です。頑丈な爪でねぐらとなる巣穴を掘ったり、子育てのための穴を掘ります。子育て中は入口をしっかりと埋めますが、これはハブなどから幼獣を守るためだと言われています。

人が持ち込んだ外来種によって行き場所を失った在来種たち

奄美大島では、1970年代後半にハブなどの駆除のために持ち込まれたファイリマングースによって、アマミノクロウサギをはじめとする奄美大島の希少な生き物たちは一時期大きく個体数を減らしました。さらに、ノネコ(野生化したネコ)による在来種の捕食は群島各島で問題となっているほか、喜界島や沖永良部島、与論島にはネズミ対策でニホンイタチが持ち込まれており、在来のトカゲやヘビなどが捕食されたり、畑を荒らす、鶏を襲うなどの報告があります。

当時は良かれと思ってやったのに、残念な結果になってしまったね



在来種を守る外来種対策、

保護増殖事業の取組み

奄美大島では在来種を守るため、平成12(2000)年度からマンガース捕獲事業を行っています。最も多いときでは約10,000頭まで増えたと推定されたマンガースも、平成30(2018)年春の捕獲を最後に、確認頭数が0頭となっています。また、奄美大島と徳之島ではノネコ捕獲やノネコの発生源となる飼育猫管理の徹底、ノラネコを減らすためのTNR(繁殖制限)が行われています。アマミノクロウサギ保護増殖事業では、外来種対策のほかに、国立公園などによる生息地保全、交通事故対策、傷病個体の救護、観光利用圧の調整などに取組んでいます。

TOPIC 1 交通事故対策の強化!

世界自然遺産に登録された際に、世界遺産委員会からの要請事項として出された一つが「野生動物の交通事故対策の効果検証と強化」です。奄美大島と徳之島では防獣ネットやフェンス等によるアマミノクロウサギを道路へ進入させない対策が決められています。



TOPIC 2 野生鳥獣の救護や希少植物保護にご協力!

奄美自然体験活動推進協議会では奄美野生生物保護基金として寄付金を募っています。寄付金は、野生動物の救護に必要な消耗品や Ersatz、盗掘されたり持ち主がいなくなったりして奄美野生生物保護センターに預けられた希少植物の育生のために活用しています。奄美野生生物保護センターの受付窓口で募金できますので、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

個体数や生息域が回復してきたアマミノクロウサギ

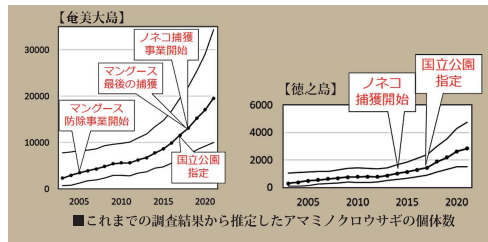


環境省ではアマミノクロウサギの生息状況を知るために、沢沿いを歩いてフンを数える調査や、冬場の餌となるスダジイの堅果(ドングリ)を数える調査をしています。

これらの生息状況調査や島の林内に設置された自動撮影カメラのデータをもとに、アマミノクロウサギの個体数を推定したところ、奄美大島で10,000-34,400頭、徳之島で

1,500-4,700頭(令和3(2021)年度の推定値)生息していると推定されました。個体数の増加傾向は近年になって顕著に見られており、マンガース防除事業やノネコ対策、森林の適正な管理など、みなさんの努力が実って回復してきたのだと言えます。

今後、私たちの暮らしの近くでもアマミノクロウサギを見る機会が増えてくるかもしれません。そんな時に気をつけたいといけなは夜間の車の運転です。アマミノクロウサギをはじめとする夜行性の生き物たちは、夜の道路上に出てくることが多々あります。同じ島に暮らす仲間への思いやりの気持ちを持って、人にも動物にも安全な速度での運転を心がけましょう。



奄美大島世界遺産センターオープン

世界自然遺産に登録されてからちょうど1年後の2022年7月26日、奄美大島世界遺産センターが奄美市住用町にオープンしました。奄美大島の自然やそこに棲む生き物の価値と、それを守るための取り組みやルールについて普及啓発を行う拠点施設となっています。館内では、奄美大島の生態系を6つに分けて、それぞれに生息・生育する動植物をジオラマ展示しています。入館無料ですので、是非足を運んでみてください。

Tel: 0997-69-2281
〒894-1201 鹿児島県奄美市住用町石原 467 番 1
開館時間 9:00 ~ 17:00 (最終入館 16:30)
休館日 平日木曜日、年末年始 (12/29 ~ 1/3)



世界自然遺産登録から1年。こんなことがありました。

湯湾岳利用ルールが試行開始されました

奄美群島最高峰の湯湾岳(標高694m)には希少で固有な動植物が数多く生息・生育しています。世界自然遺産地域である湯湾岳の価値のある自然環境を守りつつ、持続可能な利用の促進のため、令和4年11月25日より湯湾岳の利用ルールを試行開始しました。



ルールの中で、特に希少な動植物が生息・生育している祠広場から山頂までのエリアを保全ゾーンに設定し、立ち入りの制限を行っています。このような利用制限を行いつつも、湯湾岳利用者の満足度を高めて湯湾岳の高付加価値化を図るために、祠広場に展望台を整備しました。奄美群島最高峰からの眺めを是非ご堪能ください。

何万年とこの地で生き残ってきた生き物の命をこれからの未来に繋いでいくことは、この島々に住む我々の使命でもあると思います。ルールへのご理解とご協力をお願いいたします。



■詳細はこちらから

世界自然遺産地域の子どもの交流

環境省奄美野生生物保護センターと奄美自然体験推進協議会で毎年開催している「やせいのいきもの絵画展」。令和4年度は奄美・やんばる広域圏交流推進協議会にも共催いただき、特別な副賞付きで開催しました。高学年の部(小学校4年生~中学生)の入賞者には、なんと、沖縄やんばる自然観察ツアーがプレゼントされました。



国内最大級の亜熱帯照葉樹林であるやんばるの森は、世界自然遺産地域の沖縄島北部(国頭村、東村、大宜味村)に広がっています。12月のツアーに参加した奄美の子どもたちは、東村の子どもたちと一緒に講義を聞いたり、森の中を散策して、やんばるの自然や生き物について学びました。やんばるではケナガネズミのように奄美と共通する種が生息・生育しています。ですが、やはり一番の目玉はヤンバルクイナです。ヤンバルクイナの姿を見ることは出来ませんでしたが、鳴き声はしっかり聞こえ、森のどこかで懸命に生きているヤンバルクイナの姿を子どもたちと一緒に想像しました。